九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

平成25年度修士論文・卒業論文概要

門, 悟
九州大学大学院人間環境学府 : 修士課程

鄭, 春紅
九州大学大学院人間環境学府 : 修士課程

朴, 玲河
九州大学大学院人間環境学府 : 修士課程

安達, 陵人
九州大学教育学部 : 学部生

他

https://doi.org/10.15017/1498395

出版情報：教育経営学研究紀要. 17, pp.119-146, 2015-03. The Laboratory of Educational Administration, Educational Law Graduate School of Kyushu University
バージョン：
権利関係：

大学生の「能力」観への対処を支援する大学の取り組みに関する一考察
―「進路支援型」AO 入試に着目して―

稲月　ひかり
（平成 26 年３月卒業）

【章構成】

序章　本研究の課題設定
　第１節　本研究の目的
　第２節　本論文の構成と研究の方法
　第３節　先行研究の検討
第１章　「能力」観の変遷
　第１節　経済界の掲げる「能力」
　第２節　教育政策の理念に見る「能力」
　第３節　「能力」観の背景
第２章　AO 入試で求められる「能力」と選抜の実態
　第１節　AO 入試の理念における「能力」観
　第２節　AO 入試の「能力」選抜の実態
　第３節　AO 入試の「進路支援性」
第３章　「進路支援型」AO 入試による「支援」の意義
　第１節　調査概要と分析の枠組み
　第２節　「進路支援型」AO 入試のメリット・デメリット
　第３節　「進路支援性」の意義
終章　本研究の成果と課題
　第１節　本研究の成果
　第２節　本研究の課題

【概要】

序章　本研究の課題設定

本研究は、今日における「能力」観の整理を行い、その「能力」観に対処する学生を大学が支援する上で AO 入試が如何に作用し得るか検討することを目的とするものである。

文献や資料、先行研究をもとに「能力」観の変遷、AO 入試で求められる「能力」と選抜の課題について検討した。また２つの私立大学の大学入試に関わっている大学教職員へのインタビュー調査をもとに、「進路支援型」AO 入試のメリット・デメリットや「進路支援性」の意義について分析、考察した。

「能力」観の変遷に関する研究は、主に社会学の分野にいくつか存在する。本研究で AO 入試に着目するのは、AO 入試が本田(2005)の言う「ポスト近代型能力」観に（少なくとも理念上は）基づいて行われている選抜であると考えられるためである。AO 入試に関する先行研究を見ると、AO 入試を経て入学した大学生の追跡調査などの AO 入試実施大学自らによる実践的な研究が多く、また研究対象にはアドミッション・センターを設置している国公立大学での事例研究が多くを占めている。しかし、今日の四年制大学入学者数の約 8 割を占めるのは私立大学への入学者であり、AO 入試を経ての入学者数が大きいのも私立大学である。また AO 入試の全国的な動向や入試としての課題の把握を目的とした研究には、分析の視点として選抜の公平性・平等性に注目したものが多い。そこで、本研究では AO 入試を活用することで大学の「質」を維持・向上させようとしている私立大学の取り組みに注目した。

第１章　「能力」観の変遷

本章は、資料や先行研究から、現在の日本社会における「能力」観の姿とその背景を探ることを目的とした。社会の「能力」観に多大な影響を及ぼしているものとして経済団体連合の提言、中央教育審議会の答申や高大接続部会の議事録をたどり、今日の「能力」観の状況を探った。経団連の提言では「コミュニケーション能力」や「主体性」、「創造性」等の抽象的な「能力」の要請を確認した。中央教育審議会の提言やその下部組織である高大接続部会の議事録でも同様に、「創造力」や「意欲」等の言葉が散見され、本田により提唱されたハイパー・メリトクラシー化の流れが大きく変容したり鎮静化されたりすることなく、現在の社会においても連綿と続いていることが明らかとなった。

また、その「能力」観の発生背景について、先行研究をもとに整理を行った。一つ目に、社会の情報化・消費化、またそれと並行して起こるサービス化により、サービス業にとどまらない範囲の労働者に全人格的な働きが要請されていることが整理された。二つ目に、PISA 調査が基にしている「能力」観がもたらす影響を確認した。PISA 調査による影響について、直接的な教育政策の転換よりも、間接的な構造変化の点が大きかったということ、また「プログラムの特色」や「結果のインパクト」等によって国内の教育に大きな影響を持ち得たということを確認した。

第２章　AO 入試で求められる「能力」と選抜の課題

本章は、AO 入試の理念において掲げられている「能力」とその実態の把握を通して、AO 入試の選抜性における課題について確認することを目的とした。大学の入学者募集要項やアドミッションポリシーから、AO 入試実施に際しての理念の中には如何なる「能力」観が存在しているかを確認した。そこでは「問題発見・解決能力」や「たくましい力と人間性」等の言葉が並び、ハイパー・メリトクラシー化の流れを後押しする方向の動きであることが明らかとなった。

しかし、先行研究による指摘や調査資料から、AO 入試の選抜性の実態を整理すると、倍率、選抜方法と公平性の歪み、受験する高校生の受験動機の消極的さ、高校教員の感じている課題の点から、第 1 節で確認した「能力」観に基づく選抜を AO 入試に期待できなくなりつつあることを示した。

そこで AO 入試の廃止という施策の妥当性を検証した。財政という点では AO 入試の廃止は私立大学にとって良好な結果をもたらすとは限らないことを確認し、AO 入試の廃止が必ずしも妥当とは言えないことを示した。その上で、「進路支援性」を定義し、そのイメージを提示した。

第３章　「進路支援型」AO 入試による「支援」の意義

本章では私立大学の入試に携わる教職員へのインタビューから、AO 入試の「進路支援性」について検討を重ねた。先行研究を手掛かりに、AO 入試のメリット・デメリットを両端に置く縦軸、AO 入試の特徴として「回数の増加／時期の早期化」と「尺度の多元化」をその両端に置く横軸から作成された分析表を作成した。この分析表により、調査結果を AO 入試の構造（ハード）的側面と内部（ソフト）的側面のそれぞれをメリット・デメリットの対立構造で分析することが可能になった。「AO 入試に対する大学教職員の認知」の分析では、「回数の増加／選抜の早期化」という観点から、AO 入試が定員の充足に一役買っているというメリットの認識に対して、「勉強してない」学生を受け入れることになりかねないというデメリットの認知もされている。また、「尺度の多元化」では、メリットの「意欲」等の高い入学者の増加に対して、評価基準の曖昧さ・不明確さに対する懸念という点がデメリットに挙げられていた。しかしこれらの認知は、AO 入試に十分な選抜機能が期待できることを前提にした上で現れるものであることも同時に指摘できた。

そこで同様の分析枠組みを用いて、「進路支援性」に関して調査結果の分析を行ったところ、「回数の増加／時期の早期化」の点では、大学側から入学者に入学前に何らかのアプローチを可能にするというメリットと、それに対する労力の増大、高校教育との兼ね合いをより考慮しなければならないというデメリットが挙げられている。「尺度の多元化」には、入学者の希望と学部教育内容とのミスマッチが軽減されるとのメリットの認知とともに、入試形態とのミスマッチの拡大というデメリットも認知されていることが明らかとなった。ここで、デメリットに挙げられた高校教育との兼ね合い・入試形態とのミスマッチという点から、AO 入試の「進路支援性」の可能性を指摘した。具体的には、第 2 章第 3 節で定義した「進路支援性」の方法として AO 入試の試験内容の専門化を挙げて、その意義を示した。

終章　本研究の成果と課題

本研究は、今日における「能力」観に未だハイパー・メリトクラシー化の流れを見出せること、その一端である AO 入試の選抜性に限界があることを明らかにした。その上で私立大学教職員の認識から AO 入試の構造的側面、内部的側面のメリット・デメリットの対立構造を描写し、AO 入試の「進路支援性」に着目することの意義を示した。一方で、今日の社会で求められている「能力」について「ポスト近代型能力」という概念で一括りにまとめてしまっており詳細な内容や背景について追究できていない点、研究の対象を AO 入試に設定したことで「能力」観の純粋な表れに迫ることが却って困難になっている点、使用した資料についてその抽出の妥当性について疑問が生じうる点、「AO 入試廃止の妥当性」について検証する上で設定したモデルケースの信憑性が薄い点、「進路支援性」について十分な議論が展開できなかった点等に課題があると考えられる。

【主要参考文献】

・天野郁夫『大学改革を問い直す』慶應義塾大学出版会、2013 年
・荒井克弘「学習指導要領 vs 大学入試―その葛藤の軌跡といま」東北大学高等教育開発センター『高等学校指導要領 vs 大学入試』東北大学出版会、2012 年、pp.7¯37
・本田由紀『多元化する「能力」と日本社会―ハイパー・メリトクラシー化のなかで―』NTT 出版、2005 年